

This area is famous for apples.

朝日町 りんご産地 振興計画

～いいものつくって有利販売～



日本一おいしいりんごの町
山形県朝日町

2020年3月

りんご産地のさらなる飛躍を



「りんごとワインの里 朝日町」を代表する特産品である朝日町りんごには、130年をこえる長い歴史があります。この間先駆者は血のにじむような研究と数々のチャレンジを繰り返しながら、素晴らしいブランドを築き上げ、町の経済にも波及効果をもたらす重要な基幹産業に育て上げてきました。

しかしながら今、りんご産業を取り巻く環境は厳しさを増しており、特に担い手の高齢化の進行や後継者不足によるりんご生産量の減少、樹園地の老朽化など産地としての大きな課題を抱えています。

将来とも朝日町の産業を牽引するりんご産業として、他産地に負けない競争力のある産地づくりを進めるには、今こそ将来像を明確にし、それに向かって努力していかなければなりません。

そこで生産者の皆様の意向を調査させていただくとともに、生産組織の代表者や関係機関の皆様によるワークショップでの議論を繰り返し、この度「朝日町りんご産地振興計画」として、生産者と町とが目指すべき方向を明確にさせていただいたところでもあります。

生産者の皆様の積極的な取り組みにより、この計画が実現され、りんご産業が一段と飛躍されることを心からご祈念申し上げます。

むすびに、策定にあたり大変お忙しい中ご協力をいただきました、各生産組織はじめ関係機関の皆様方に心から御礼を申し上げます。

令和2年3月

朝日町長 鈴木浩幸

INDEX

目次

1

第一章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨	2
2 計画の位置づけ	3
3 計画の期間	4
4 目指す姿	4

5

第二章 朝日町りんご産業を取り巻く社会情勢等の変化及び現状

I 人口減少と消費者	6
1 人口、農業従事者について	6
2 日本国内のりんご生産及び消費額について	7
3 消費者の果物購入に対するニーズ	8
II 果樹及びりんご産地の状況	9
1 果樹の状況	9
2 主要生産地の生産状況	10
3 主要生産県の生産状況	11
III アンケート結果からみる朝日町の現状	12
1 アンケート結果	12
2 朝日町りんごの産地・経営体の推計（アンケート結果から）	14
IV りんご産地の将来展望と朝日町の課題	15
1 りんご産地の将来展望と課題	15
2 アンケート結果から見えてきた朝日町りんご産地の課題	16
3 りんご産地振興の基本方向	17
4 将来（2029年以降）の町を目指すべき姿について	18
5 将来経営モデル	19

21

第三章 施策の展開方向

I 意欲ある経営体を支援する生産基盤の強化	22
1 市場や消費者の需要に応えることのできる産地づくり	22
2 産地に適合する栽培技術の研究と普及	23
3 省力化、軽労化を実現する技術等の導入促進	23
4 平場園地の造成とスマート農業の展開	24
5 意欲ある担い手への園地の集約化促進	24
II 競争力を持つ経営体の育成と人材、労働力の確保	27
1 法人化の促進と経営支援	27
2 多様な経営人材の確保、育成	28
3 労働力の確保	28
III 産地ブランド力の向上	31
1 有利販売体制づくりの推進	31
2 地理的表示 (GI) の取得登録と安全安心の取り組み強化	32
3 新たな顧客の拡大と輸出の強化	33
4 付加価値を高める産地の6次産業化の推進	33

35

参考資料

「朝日町りんご産地振興計画」策定経過	36
朝日町りんご産地振興計画策定委員会名簿	37
朝日町りんご産地振興計画策定ワーキンググループ (部会)	38
朝日町りんごの歴史	40



満開のりんごの花

第一章

計画の策定にあたって

1

1 計画策定の趣旨

朝日町のりんご栽培の歴史は古く、明治20年に初めて植栽された記録が残っています。その後、先人たちの努力の積み重ねにより、栽培技術も向上し、面積も増加してきました。

昭和40年代に入ると、価格低迷から脱却を図るため、優良品種ふじへの品種更新を進める一方、昭和46年には無袋ふじ研究会が中心となり、無袋ふじ栽培技術を確立し、味を最重視した栽培体系により、中央市場で高い評価を得られ、「無袋ふじ発祥の地」「日本一おいしいりんごの町」として銘柄産地を形成してきました。

その後も、「シナノスイートの銘柄確立」、「りんごの海外輸出」、「新半わい化栽培の推進」とりんご産業の発展、ブランドの構築と基幹産業として町を牽引してきたところです。

しかしながら、このりんご産業においては、既に高齢化や担い手不足が進行しているとともに、労働力不足、栽培面積の減少、生産技術習得までの時間と労力、廃業による廃園の増加、気象災害リスク、複雑多様な流通形態、関係法令による規制など、りんご産業を取り巻く環境は、様々な課題に直面しており、このまま人口減少が進んだ場合、遠くない将来においては、生産者の減少はもとより、「日本一おいしいりんごの町」産地自体の存続が危ぶまれる恐れがあります。

このような状況を踏まえ、りんご産地の縮小を食い止め、高いブランド力のあるりんご産地を今後とも維持発展させるために、朝日町りんご産地の目指すべき方向性の指針として「朝日町りんご産地振興計画」を策定します。

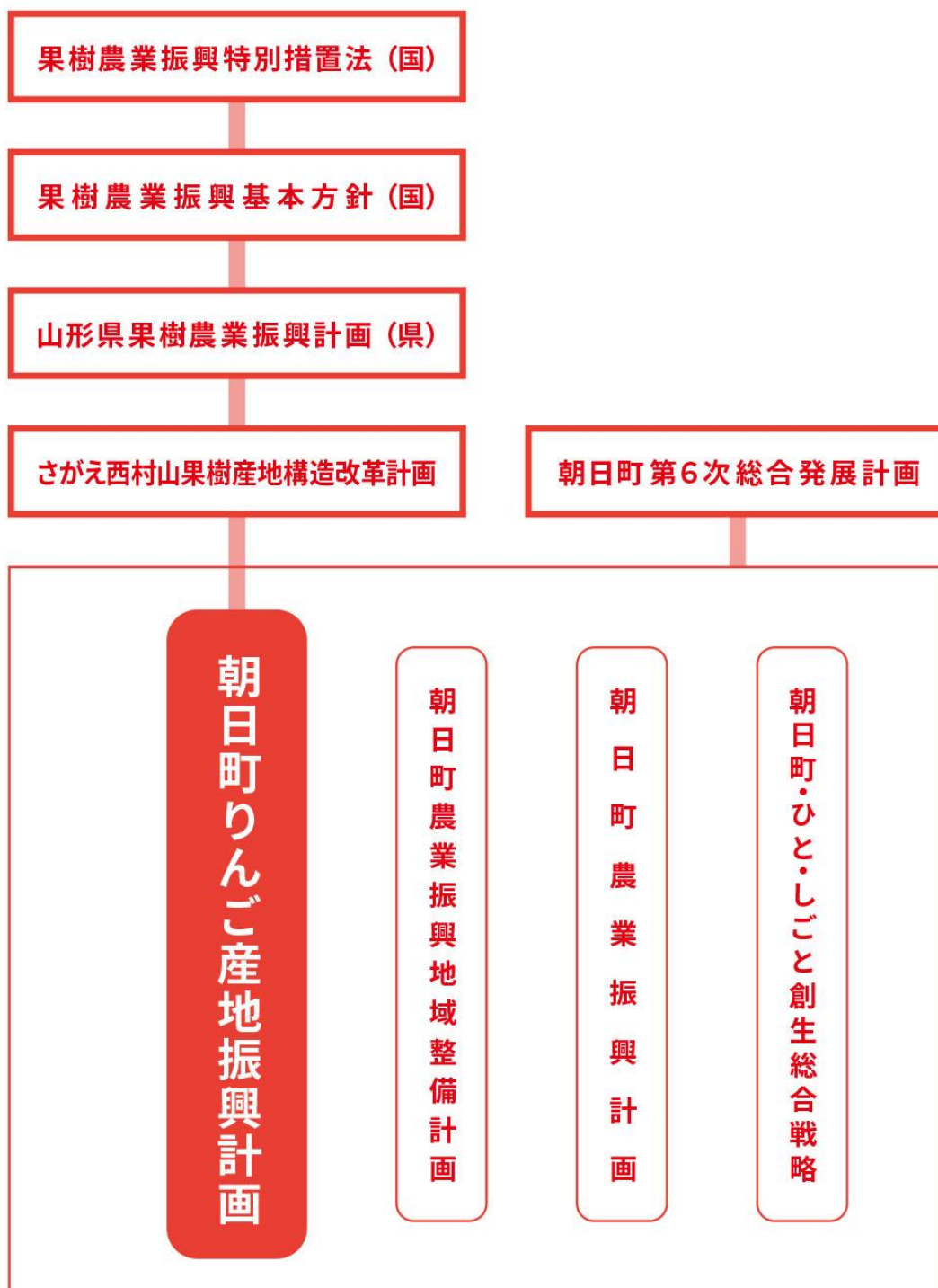


収穫作業前の、赤く色づいたりんご

2 計画の位置づけ

本計画は、国の「果樹農業振興基本方針」、「山形県果樹農業振興計画」、「さがえ西村山果樹産地構造改革計画」に係る計画と位置付けるとともに、「第6次朝日町総合発展計画」に基づいた計画とします。

【朝日町りんご産地振興計画の位置づけ】



3 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度を初年度とし、終期を「第6次朝日町総合発展計画」の令和9年度とします。計画期間中に産地の状況に大きな変化が生じた場合は、必要に応じて計画の見直しを行います。

4 目指す姿

将来の
目指すべき
姿

“ いいものつくって有利販売 ”

人口減少や、担い手不足、今後見込まれる一層のグローバル化などの環境下において、産地、そして産業として維持発展していくためには、従来の対策のみでは困難であると考え、これまでにない新たな視点や様々な対策を講じて課題を克服していくことが重要であります。

今後の「日本一おいしいりんごの町」の産地を更に維持発展させていくためには、りんご産地の縮小を食い止め、更なる品質向上と有利販売を確立し、産地ブランド力の向上を目指していきます。



りんごトップセールス（台湾）